

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101181		
法人名	医療法人 中沢会		
事業所名	グループホーム N・Sホーム 3号		
所在地	群馬県前橋市下大島町596番の1		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同法人内に3ユニットのグループホームがあるが、それぞれ個性あるホームとなっている。3号ホームでは入居者様が主体となり、現役時に積み重ねた経験を活かし職員に対して様々な知恵、アドバイス、指導をされながら変わらぬ環境、地域の中でそれぞれが役割を持って、日々充実した生活が送れるようケアプランを作成し、職員が理念に基づき統一した援助を行っている。特に重視していることは個々の意志決定を尊重し、食べる事の楽しみを持って頂くため、季節に応じた食材を利用し、利用者様から教えて頂き職員と共に作る手造り味噌、切り干し大根や梅干し作り、長年続いている糠漬け、そしてご本人希望の飲酒など……。超高齢化社会に向け地域の拠点となるよう、又利用者様が一日でも長く変わらぬ笑顔で楽しい日々が送られるようなホームを目指しています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3ユニット共通の理念を新たに作成、職員は常に理念を念頭に置き、毎朝の引き継ぎ等の機会に唱和し日々のケアの基本としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時等に声掛けをし、気軽に来て頂ける様にしている。又事業所の各種行事の際は回覧板やチラシ配りをし、地域の方々へ参加を呼び掛けている。地域の夏祭りや敬老会等の行事に招待され参加している。(H26. 7.26下大島町納涼祭参加)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方等との意見交換を実施し、地域の高齢者様の現状を理解すると共に、発信出来る事は実施している。また、NSホームたよりを地域へと回覧、より多くの方にホームの様子を知って頂くことで認知症への理解に繋がられるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市職員、家族等が参加し2ヶ月毎に3ユニット合同で開催している。事業所の現状報告をはじめ、地域の状況、市への質問、家族からの要望等意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加して頂き、法改正、他ホーム情報を聞かせて頂く他、事業所からの報告を受けての意見を頂くことでサービス向上に活かしている。又日頃から相談に乗って頂けるよう協力を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会に各ユニット2名ずつの委員を選出し、勉強会を開催したり法人内外の研修会にも出席、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。玄関の施錠はせずにセンサーで確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会を設け、法人内外の研修、ホーム全体会議、ユニット会議など通し防止に努めている。また、言葉かけにも注意し職員間で徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会において学ぶ機会を持ち、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、法改定時に御家族の方に十分な説明を行い、細かい所も理解して頂けるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ユニットそれぞれに苦情担当者を決め、玄関に苦情箱を設置、意見を反映している。その他面会時を利用し、意見や要望を気軽に話してもらえるよう努めている。また、電話で利用者様の状況を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、介護会議、ユニット会議、勉強会等で職員の意見交換を行っている。代表者や管理者は会議に出席し、また報告を受け状況把握を行い対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットの状況を把握し、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内外の研修に参加することを奨励している。介護研修センター等主催の研修会には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学、研修の機会を設け、行っている。研修後は文章に残し全体会議などで報告、他職員も刺激を受けサービスの向上につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご本人の状態を確認させて頂き安心して入居出来る様にお話を伺うようにしている。グループホームでどのような生活を望んでいるのか、要望等聞かせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の時に、ご家族が抱えている困っている事、入居に際しての不安・要望等を伺い安心して入居できる状況を作る事で信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にご本人やご家族等から話を伺い、またご本人の様子や状態を確認させて頂き、その時に他サービスが必要と思われる時には紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵を教えていただいたり、料理を作る上でのコツ等沢山の事を学ばせて頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築く環境作りを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事や小旅行、家族会等に参加して頂いた際や、日常の来訪時等に悩みをお聞きしたり、利用者様が喜ばれ笑顔で一杯になれる姿を共に大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会等の行事に参加したり、年末年始お盆の外泊や外出を勧めたり、家族や友人の訪問を奨励し、馴染みの関係継続の支援をおこなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずにレクリエーションや会話に参加して頂いたり、お手伝い等を共同で行える機会を設け、利用者様同士が互いを補いつつ関われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、いつでも気軽に訪ねて頂けるように、ご家族との関係を大切にし、必要に応じて相談や支援に努める様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に生活歴や趣味を把握すると共に、ご本人やご家族から何がしたいか、どうありたいか等の思いや意向を伺う他、日々の会話やちょっとした行動から思いや希望を汲み取るよう努め、それに沿って支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や思い出の品物等を持ってきて頂いている。また、一人ひとりの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ本人の意思や希望に沿うよう努めている。また、個々のADL等の現状を観察、把握しそれぞれの能力が発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限りご家族にカンファレンスに参加して頂き、意見が反映できる様努力し作成している。職員間でも常に各利用者様の現状を把握し、意見交換を行い変化に応じて適宜見直している。モニタリングは基本4ヶ月に1度行い、実践結果を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態や気付いたこと、利用者様の発言などを個別記録し、職員間で情報を共有し日々のケアに反映させ、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、日々の生活の中でその都度発生するニーズに対し、柔軟に対応できるよう職員間で常に情報交換し、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方に出席して頂き情報を頂いたり、専門学校生の研修やボランティアの方と協力しながら、本人が持てる力を発揮しつつ安心して暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望医療機関を確認している。現在全利用者が協力医療機関としている。2週間から3週間に1度往診があり、3ユニット専属の看護師が心身の状態や薬を管理している。必要に応じ随時受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者様の日々の情報や変調を明確に看護師へ伝え、適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に至るまでの状態、日々の様子等を病院に伝えている。また、入院中の様子や病状の経過等伝えてもらえるよう関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、看取りに関する指針を定めて入居時に説明を行い、同意を得ている。また協力医療機関との連携で支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の応急手当・初期対応の勉強会への参加、法人が依頼した市消防局の出張救命講習会に参加し、AEDの使い方等の訓練も行い身に付ける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間想定避難訓練を年2回行っている。また、地域の消防署の指導を受けて協力体制を築いている。(26. 6. 18 夜間想定訓練実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時はさり気ない声掛けやドア外での排泄音確認を行い、本人のプライバシーや誇りに配慮した支援を行っている。また、ご利用者様の人格を尊重し、思いやりのある態度で接する事を職員一同心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方やレクリエーション、食事の希望を伺い御自分で決められたりと、納得しながら暮らして頂ける様働きかけている。また、ご利用者様が希望の表出や自己決定しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、合唱、テレビ鑑賞、お一人での時間や趣味の時間を持ちたい等、希望を伺い個々のペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの髪型や、気候・季節の変化に合わせて服を選んだり、外出時にもご利用者様の要望に合わせて服を選ぶお手伝いをさせて頂く等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を把握し、季節ごとの旬な食材や畑で収穫した野菜等を取り入れたメニュー作りを行っている。また、野菜の下ごしらえや簡単な調理補助、片付けなどを一緒に行って頂くなど、経験を活かすことで食事を楽しんで頂ける様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量や水分量を、摂取した度に記録を行い、食事・水分共に個々の状態に合わせた形態で提供し、栄養・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態の確認を行い、本人の力に応じて歯磨きの声掛け、見守りを行っている。夜間義歯を預り、衛生管理のため消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、早目の声掛けや見守りを行い、紙パンツ使用の方は布パンツへ移行できるよう、排泄の自立へ向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂く。また、食物繊維の多い野菜類を中心に食事を提供し、日中の体操・散歩等の軽運動により便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、午後に行っている。ご利用者様の希望を伺い入浴日を変更したり、入浴の長さや声掛けのタイミングを一人ひとり変えて、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、休んで頂いている。不眠のため夜間起きている方には会話対応を行い、安心して休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の内服薬を把握し、変更時は個人記録、伝達ノートに記入し職員間で理解できるようにしている。また、医師・看護師より説明を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の持つ力や生活歴等を把握し、床の掃き掃除や洗濯物たたみ、お盆拭き等の役割分担を行ったり、写経等趣味に応じたレクリエーションの場を設けるなど、その方なりの張り合いや喜びのある生活を送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に事業所周辺の敷地内や、近隣の住宅付近を散歩している。また、併設施設のマイクロを利用し、皆様の希望を伺い計画を立て、外食や季節に応じて花見に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理ができ、所持を希望される方にはご家族と相談し、了承を頂いた場合に限り所持して頂き、外出時買い物をして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合のよい時間を伺い、了承を頂いた上でご本人が希望された際に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい大きさのカレンダー、時計の掲示やホールには行事等の写真やご利用者さまの作品、季節を感じられる花などを飾り、心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビ前、食堂席に人数分の椅子を置き、隣合った方と談笑しながらのテレビ鑑賞や、時に一人で外の様子を眺め過ごされたりと個々のペースで過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には長年ご自宅で使用されていた家具や、ご家族の写真、趣味の道具等を持ち込まれ、ご本人が居心地よく過ごせるように過ごして頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとに洗面所（一部トイレ付）、押入れ、トイレと居室の色別扉、廊下に設置した手すりやご自分で出し入れできる名前を付けた下駄箱などの工夫をしている。		